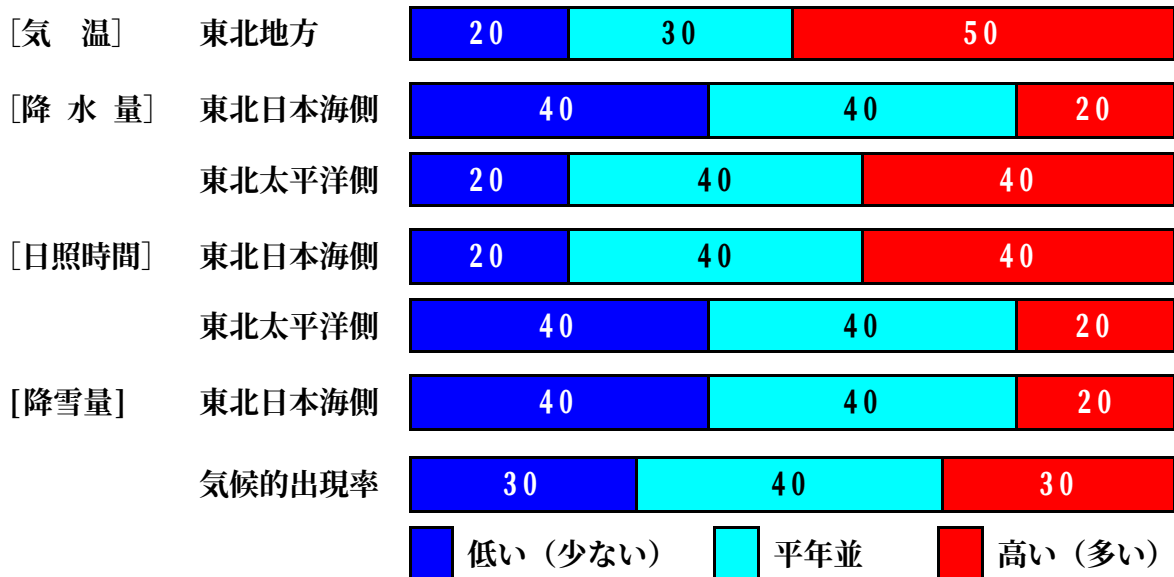


東北地方1か月予報の解説（予報期間：12月25日～1月24日）

平成11年12月24日 仙台管区气象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率（％）



- [気 温]：東北地方は「高い」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「平年並」で、その確率は30%です。「低い」の確率は20%と小さい。
- [降 水 量]：東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の確率は20%と小さい。東北太平洋側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の確率は20%と小さい。
- [日照時間]：東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の確率は20%と小さい。東北太平洋側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の確率は20%と小さい。
- [降 雪 量]：東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の確率は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

①向こう1か月

東北地方は、2週目は冬型の気圧配置が続く見込みですが、その他の期間は冬型の気圧配置は長続きしないでしょう。このため、東北日本海側は平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

この期間の平均気温は高い見込みです。寒暖の変動が大きいでしょう。また、東北日本海側の降雪量は平年並か少ない見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約7日、東北太平洋側で約20日です。

②各予報期間の天候の特徴

1 週目……………

(12月25日～12月31日)

向こう一週間は、期間の初めと終わりに気圧の谷がとおり東北日本海側を中心に天気が崩れるでしょう。気圧の谷の通過後、一時的に冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪や雨が降りますが、東北太平洋側では概ね晴れるでしょう。

平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約2日、東北太平洋側で約5日です。

2 週目……………

(1月1日～1月7日)

冬型の気圧配置が続くでしょう。東北日本海側は平年同様曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約1日、東北太平洋側で約5日です。

3～4 週目……………

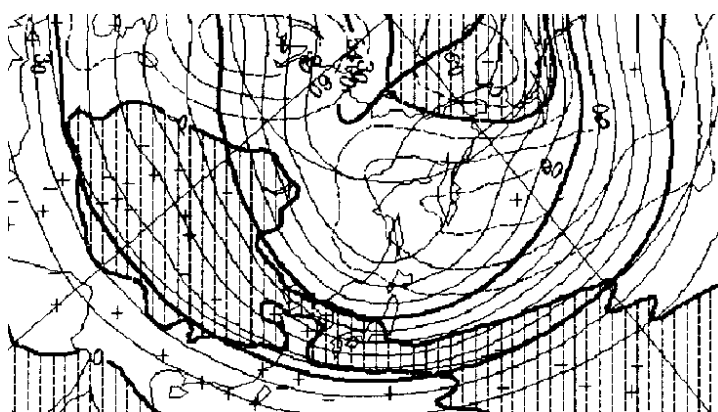
(1月8日～1月21日)

冬型の気圧配置となりますが長続きせず、周期的に気圧の谷が通過するでしょう。東北日本海側は平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

平均気温は高いの見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約3日、東北太平洋側で約10日です。

③予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



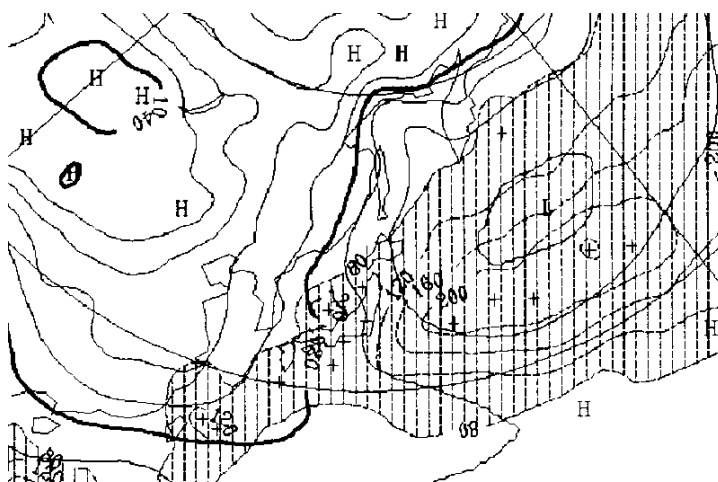
月平均の500hPa高度・偏差

(等高度：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は西日本で負偏差、東・北日本は正偏差となる。日本付近の流れはゾーナル^{注1}で冬型の気圧配置が長続きせず、低気圧の影響を受けやすい。2 週目（図略）は、日本付近広く負偏差に覆われるが、3 週目以降（図略）は、日本付近は広く正偏差になっている。

注1) ゾーナル：偏西風の南北の蛇行が小さい状態。低気圧や高気圧が順調に東進し、天気は周期的に変化しやすい。



月平均の地上気圧と降水量

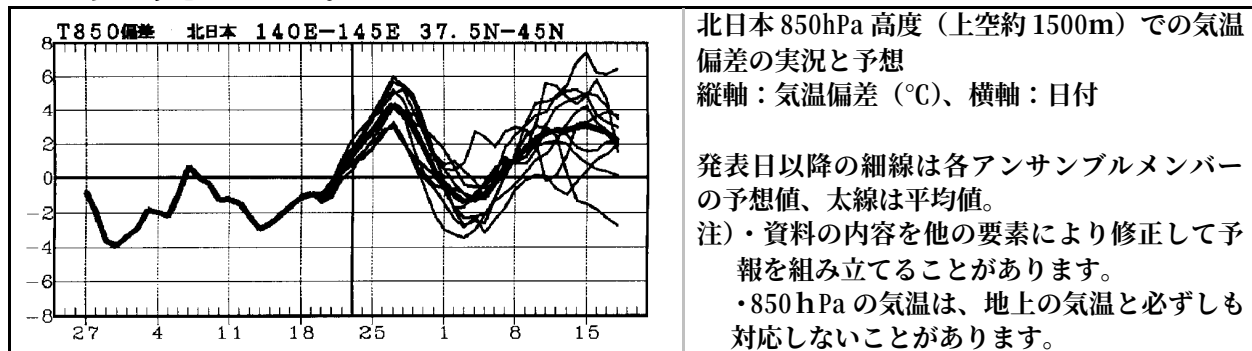
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均でみると、大陸から高気圧が張り出し、北海道のはるか東海上には低気圧があって、日本付近は冬型の気圧配置となっている。また、本州南岸は、等圧線がくびれており気圧の谷が通りやすいことを示している。これに伴う降水域は日本海中部と日本の東海上、本州の南岸沿いに広がる。2 週目（図略）は等圧線の間隔が狭く、強い冬型。3～4 週目（図略）は冬型の気圧配置は弱く、本州の南岸沿いに気圧の谷が形成され、降水域も本州の南岸沿いに広がる。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温偏差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1週目は正偏差、2週目は負偏差、その後は正偏差と大きく変動する予想となっている。2週目の寒気の程度や3週目以降の高温の程度にはばらつきが見られるが、ほとんどのメンバーが大きな傾向は同じように予想している。

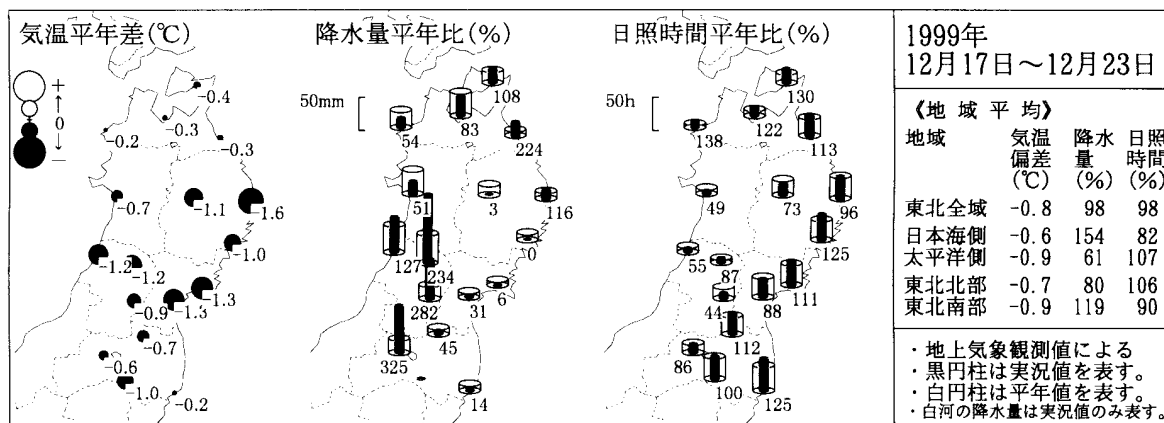


注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間（12月17日～12月23日）の天候の経過

この期間、冬型の気圧配置が続いた。このため東北日本海側では雪となり、東北太平洋側では概ね晴れた。21日は上空に寒気を伴った低気圧の影響で、山形県では大雪となった。

平均気温は、東北地方で平年差 -0.8℃。降水量は、東北日本海側で平年比 154%、東北太平洋側では平年比 61%。日照時間は、東北日本海側で平年比 82%、東北太平洋側で平年比 107%だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）